

いわた

# 文化財だより 第209号

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和4年8月1日発行

目次

- 開催中 保存修理完了記念  
明ヶ島土製品だヨ!! 全員集合  
～重要文化財 1064 点のすべて～ ・P1～2
- 源平伝説地を訪ねて その4 ・P3
- 訂正 文化財だより第116号について ・P4
- コラム『探し物』大草悦子 ・P4

／開催中

保存修理完了記念

明ヶ島土製品だヨ!! 全員集合

重要文化財 1064 点のすべて



令和4年7月30日(土)～8月28日(日)  
 開館時間:午前9時から午後5時  
 休館日:毎週月曜日、8月26日休館  
 ところ:磐田市立中央図書館 展示室

入場無料

文化財課では、恒久的な保存と歴史資料としての活用のため、平成26年度から重要文化財「静岡県明ヶ島古墳群出土土製品」のうち、1,064点の保存修理を行ってきました。全点の保存修理が完了したことを記念し、これらを一挙展示します。たくさんの小さな土製品をご覧ください、古墳時代の人々がどんな思いで造形したのか、思いを馳せてみてください。

## 明ヶ島古墳群出土土製品とは

平成8年度から10年度にかけて明ヶ島古墳群(明ヶ島原)の発掘調査で見つかった、1,600年前(5世紀前半)頃につくられた10cm程度の大きさの土製品です。有力者の墓を作る際の地鎮のようなマツリに使われた道具だと考えられます。

種類の豊富さ、量ともに国内では他に例がないこと、古墳時代のマツリや生活の様子が見える貴重な資料であることから平成25年に重要文化財に指定されました。



明ヶ島古墳群出土土製品(人形)



最も多く見つかった人物の集合写真

## みどころ1

### 重要文化財1,064点一挙展示

重要文化財に指定されている土製品は4,292点あり、その中で残りのよい1,064点を保存修理しました。展示では元の形によみがえった1,064点全てを展示します。

人・動物・楽器など種類ごとに展示しますので、その種類と数の多さをぜひご覧ください。

人の形をした土製品には、男性、女性、武人、といたますが、個性豊かな表情です、是非お好みの人を見つけてみてください。

## みどころ2 保存修理を終え、復元された土製品

土製品の多くは割れた状態で出土し、完全な形のものも多くありませんでした。そのため、文化庁の指導のもと、専門機関により樹脂を使って接合箇所の強化と欠けた部分の復元をおこないました。中には半分程度しか残っていないものもあり、似た形のものを参考にして復元したものもあります。



## みどころ3 手のひらサイズの土製品に、実物の特徴をとらえた表現



土製品は、ほとんどが簡素な作りですが、<sup>よろい</sup>鎧の鉄板の繋ぎ目や<sup>げん</sup>琴の弦などを線や粘土紐で表現するなど、実物の特徴をよくとらえたものも見られます。

実際の道具と並べて展示もしますので、ぜひ見比べてみてください。

### 講演会 『祝！修理完了 重要文化財明ヶ島古墳群の土製品と磐田の古墳時代』

とき:令和4年8月20日(土) 14:00~16:00

ところ:磐田市立中央図書館2階視聴覚ホール(磐田市見付3599-5)

内容:土製品の保存修理を指導した文化庁の調査官が、土製品と磐田の古墳時代について分かりやすくお話しします。

講師:横須賀倫達氏(文化庁文化財第一課 文化財調査官)

定員:100人(応募多数の場合は抽選)

参加無料

申込み:8月5日(金)まで受付 電子申請または電話で文化財課へ(0538-32-9699)



電子申請  
二次元バーコード



# 源平伝説地を訪ねて その4

磐田市内の源平の伝説地を訪ねるこのシリーズ。4回目となる今回は、「源頼朝と積雲院、鶴ヶ池」についてです。

## 源頼朝と鶴ヶ池の説話

平治元年（1159）頼朝の兄・朝長は、平治の乱で平清盛に敗れた父・義朝と共に京都から東海道に落ち延びる途中、美濃国で自害します。その後、朝長に仕えていた大谷忠太は自身の故郷である大谷村（市内藤上原）の隣村にある積雲院（袋井市）へ朝長の首を葬り、供養塔を建立しました。積雲院がある「友永」という地名は、朝長が由来となっているという云い伝えがあります。（参考：『遠江國風土記傳』）

また、友永にある御沙汰神社では朝長が祭神として祀られています。

その後建久元年（1190）、頼朝は京への上洛途中、兄・朝長の墓所がある積雲院に立ち寄りました（上洛年は諸説あり）。そして、東海道への帰路、岩井村で鶴が飼われていることを知った頼朝は、父や兄の供養のため、村から鶴を譲り受け、脚に金の札をつけて岩井池から放ちました。この後、岩井池は鶴ヶ池と呼ばれるようになりました。

鶴ヶ池の由来には異説があります。寿永2年（1183）3月、頼朝が岩井村を訪れた際、足を痛めました。そこで頼朝は天神社に平癒祈願のため、鶴の脚に金の札を付け池に放しました。これ以来、鶴ヶ池と名付けたといわれています。（参考：『安全寺記録』）

脚に金の札を付けた鶴は、掛塚本町の屋台の天幕や、浮世絵にも描かれています。



天神社（三ヶ野）



鶴ヶ池

## 朝長の供養塔(五輪塔)



源朝長墓祠

積雲院の五輪塔は焼津市産緑色凝灰岩製で、四面に梵字が刻まれています。文化財だより第207号で紹介した鎌田兵衛供養塔と同石材で、塔の形から造られた時期も同じ14世紀初頭頃と考えられます。

現在、朝長の供養塔は袋井市の指定文化財となっています。

文化財だより第207号はこちらから→



## 訂正 文化財だより第 116 号について

平成 26 年 11 月 1 日発行の『文化財だより第 116 号』3 ページ「ふるさとの信仰（4）庚申」の記事で使用している写真につけられたキャプションに誤りがありました。正しくは下記の通りです。訂正してお詫びします。



<上から 2 枚目の写真>  
庚申堂（匂坂中）



<上から 3 枚目の写真>  
庚申堂（寺谷）

市ホームページからは、訂正後の文化財だより第 116 号をご覧ください。

二次元バーコードからも閲覧可能です。



文化財だより第 116 号

### 職員リレー コラム

### 「探し物」

### 大草悦子

数年前に安芸の宮島へ旅行に行ってから、私には探し物ができました。それは何かというと、切ってもいい大きな楠です。最初は大きな楠を探しているということだったので、心当たりがあるという話をしましたが、よくよく話を聞くと巖島神社が鳥居用に切ってもいい木を探しているということで、心当たりがなくなってしまいました。当時は鳥居の改修工事の真っ最中でしたが、木を見つけるのに苦労したため、次回用を四六時中探しているというのです。

家に帰ってから、その気になって探してみると、意外や意外、近所にも大きいのではと思える楠がありました。しかし、実際にどの位の大きさの木が必要か巖島神社に問い合わせると、なんと製材後の長さが 15m は必要ということが分かり、あえなく失敗に終わりました。

有形物を後世に残していくためには、修繕が必要不可欠です。そのために必要な材料をそろえるのが、そう簡単なことではない場合もあるのだと考えさせられました。



磐田市イメージキャラクター  
しっぺい

**編** 中央図書館にて企画展開催中です。数も種  
**集** 類も豊富な明ヶ島古墳群出土土製品、この  
**後** 機会にぜひご覧ください！8月5日まで講  
**記** 演会も受付けています。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部  
文化財課（磐田市埋蔵文化財センター）  
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1  
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。 [磐田 文化財だより](#) [検索](#)

